

「安定宣言」路線 → 「大胆な妥協裏切」路線 → 「恥場を売り渡す屈服路線」

★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★ ★

全国の動労組合員のみなさん！
第三十六回全国大会における「本部」反動分子の財政的破産や、「千葉対策」、「ジェット決議」に現出された路線的破産の実態について、三回にわたって明らかにしてきましたが、今回は反合闘争路線のデタラメさについて明らかにしたいと思います。

★ ★ ★ ★ ★

なぜ「安定宣言」路線の総括が
できないのか

誰でも知っているように、「本部」反動分子は「五三・一〇」の時点で、デタラメな「経済学」をもって闘わずに屈服する路線――「安定宣言」路線を打ち出し、全国の戦闘的・良心的組合員を暴力で抑え込みつつ、路線化してきました。

第三十六回全国大会における「本部」反動分子の反合方針の破産の第一は、この「安定宣言」についての総括がまったくなされていないということです。

第三十四回（津山）暴力大会や第三十五回（熊本）大会において、修正動議が出され、採決までされた「安定宣言」の総括も出せないほど、「本部」反動分子の主張がデタラメであつたことは、今日の「五五・一〇」を前に実に鮮明になつてしまつてゐるのです。

第三十四、三十五回大会方針書を今読み返してみれば、彼等の言っていた「経済学」のデータメ
 さは一目瞭然です。

無責任な組織の私物化

大会においても、代議員から「本部は『安定宣言』を出す時点で、『削減』は合理化ではない、国鉄が競争に負けて貨物がなくなるのだから、空気を運んでも仕方がないと言っていた。しかし、今日、検修合理化を見るならば、仕事があるのに当局は合理化しようとしているではないか。『削減・合理化』というとならえ方はやはり問題ではないか。」と質問された城石組織部長が「私は『削減・合理化』というとならえ方は正しいと思うがあなたも『削減イコール合理化』と考えるならばそれでも結構です。」と答え、このあまりの無責任さに、多くの戦闘的・良心的代議員が啞然としたということは、今日では全国の組合員のよく知っていることですが、この一事を見ても、「本部」反

動分子の路線的破産と無責任なセクト的な組織の私物化による「動労の戦闘性の喰いつプシ」の実態は明らかです。

何のために二度までも全国大会で採決までしたのでしょうか。

「三五万人合理化」が、「再建法」の名をもつてかけられようとする時に、とりわけ「三五万人体制攻撃の初年度」たる「五五・一〇」を目前にした第三六回全国大会において、このような答弁をもつて、全国の闘う動労組合員を愚弄する「本部」反動分子が、反合闘争をまともに闘うことなどできないのは当然といわなければなりません。

職場を守るために、反動分子一掃
 Ⅱ 動労大改革に決起しよう！

全国大会方針（案）における反合方針の問題点は、「安定宣言」路線を更におし進めて「大胆な妥協」路線という、反合完全放棄のともないない屈服＝職場を売り渡す＝路線であるということについて、この間、再三明らかにしてきた通りであり重複は避けます。しかし第三十六回全国大会で良心的・戦闘的代議員からの修正動議を、財政破綻をいんべいして大会をのり切るためのセクト的思惑から、ほとんど全部受け入れざるを得なかったとは言え、「本部」反動分子が反合闘争をまともに闘う気はなく、「大胆に妥協する＝大胆に裏切る」ことにこそ、当局の武装親衛隊として生きのびようとする本當の狙いがあることを見据えなければなりません。

全国の勤労組合員のみなさん！

「本部」反動分子のこのような腐り切った屈服・裏切り路線をのりこえ、「三五万人体制」攻撃をはね返し、職場と労働条件を守り、真に国鉄労働者の未来を切拓いてゆくために、労働の闘う伝統を再生させる労働大改革へ向けて、ともに決起してゆこうではありませんか。

80. 9.28

No. 全日版
67

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八（動力車會館）
（鉄電）二三五八・九・（公衆）四三二二七二〇七

